

東田利町報

№. 225 昭和50年(1975) 8月1日

発行 秋田県東田利町役場 印刷 K K 本間印刷所
毎月1日発行(1部20円) 和昭42年7月21日第3種郵便物認可

町の概況

人口総数 6,618
うち男 3,249
うち女 3,369
世帯数 1,503
面積 148.51^{km}²

無料総合診療所開設

8月8日法内分館で
県では、県内各市町村の
無医地区住民を主対象に無
料の健康診査を実施してい
ますが本年度は、本町の法
内地区住民を対象に次に
「総合診療所」が開設さ
れることになりました。
町では当日を「健康診断
の日」と考え、地区内の全
成人者が受診されるよう
のぞんでいます。
【日時】八月八日10時～14
時(受付時間は10時～12時)
【場所】公民館法内分館。
【診療科目】内科・外科・
眼科・耳鼻咽喉科・産婦人科
なお、胸部レントゲン撮
映も実施されます。(七月
の実施時に未済の方の受診
がのぞまれています)

夏季の事故根絶しよう

手紙作戦に参加を

旧盆にあたる8月は、毎年帰省者や学生等の交通事故が激増しており、この防止をはかるため本町警察署、同地区交通安全協会等が次のように家族からの手紙による呼びかけ運動を展開、協力をのぞんでいます。

この夏、帰省することが予定されている人たちに各家族は次のような内容の手紙を出すようにしましょう。

①帰省はできるだけ自家用車を避ける。②やむを得ず自家用車を利用する場合は時間的十分な余裕を持ち安全速度を心がける。③過労によるいねわり運転を防止するため出発の前日は十分休養、途中でも随時休けいする。④無理な追い越しや飲酒運転は絶対行わないなど。

また、帰省中でも自家用車での旅行や観光地めぐりは時間的に余裕のある計画をたて休養や休けい等に十分注意、常に安全速度と安全運転で交通事故を防止するため家族や周囲のみんなが注意し合うようのぞんでいます。

夏の交通安全運動

期間 8月1日～7日

県交通対策協議会は、8月1日から7日までの1週間を夏の交通安全運動実施期間に定め①子どもと老人の事故防止、②自転車の事故防止、③飲酒運転の徹底追放、④安全運転の励行を呼びかけています。

夏休み期間中、子どもを事故から守るため飛び出し防止のしつけを徹底させるほか自転車の整備点検等も実施、あらゆる面での事故防止に気を配りましょう。



収穫の最盛期を迎えた葉たばこ、良好な生育に顔もほころぶ

葉たばこ「収穫始まる」

10アール平均35万円を見込む

ジツとしていても汗ばむ暑さの中で、葉たばこの収穫作業が始まり今月中には最盛期(十九・三三)はいずれも順

調に生育、人の背を越すほどになり十アール当たりの平均収量は三百鈴、販売額で三十五万円を越すものと予想され、町全体の生産額は七千万円近くになるものと見られています。本年度の生産者米価が農家の要求額をかなり下まわった六〇鈴当たり一万五千五百七十円に決定したこともあり価格が保証され生産額が米の二倍を越す葉たばこには新たな関心が寄せられています。町が今年も機械や乾燥施設、耕作振興会の活動費などに八十七万円の助成を予定していることもあり、収穫作業に精を出す栽培農家は精々も順調な生育に笑顔を見せています。



楽しい交流の場に

第1回老人ク大会

七月七日 老人いこいの家「朋楽荘」を会場に町内各老人クラブから約三百人の老人が出席、第一回町老人クラブ大会が盛大に開催されました。梅津老ク連合会長のあいさつに続いて長年老クの役員として組織の発展に業績をのこされた故郷藤末松・渡辺福蔵両氏の梅津会長から感謝状、九十歳以上の高齢者が健康に留意し、

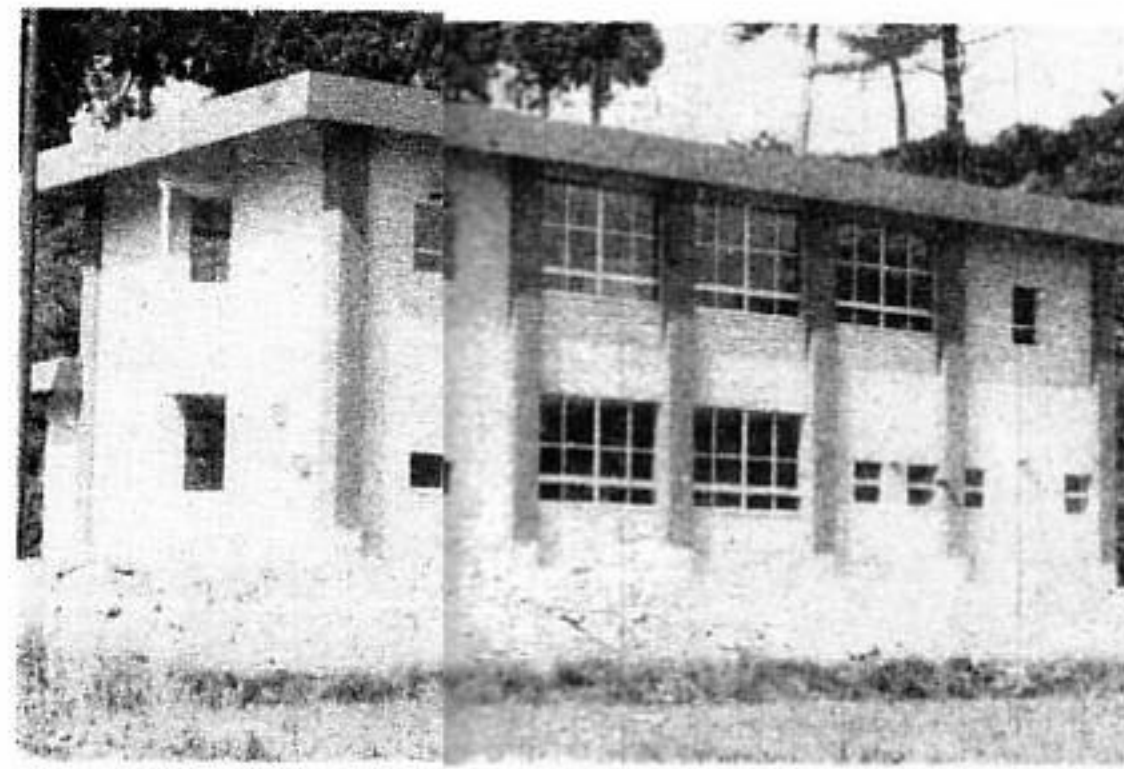
多勢の参観者を迎え盛会だった共進会風景

他の模範となっている佐々木ユキノ・畑山要造・小松タキの皆さんに小松町長から祝状が贈られ、ますます長生きをされるようお祝いの言葉が寄せられました。

続いて小畑好子知事夫人の講演や懇親会を通じ、交流を深め合う楽しい場になりました。◇「芳志ありがとう」宿小へユニフォーム

大日向商会(大日向貞弘代表)は、約十万人相当の野球ユニフォーム十四着を地元の宿小へ寄贈、児童たちから喜ばれています。

克雪管理センター完成



完成した克雪管理センター(南面)

昭和四十九年度に全国十カ所のうちのひとつとして二カ年連続事業で法内地区に建設されていた鉄筋コンクリート造り二階建三五四・三平方分の克雪管理センターがこのほど完成、地区民から大きな期待を集めています。

同センターは、雪を克服し住民福祉の向上と、その民生の安定をはかることを目的に、国県補助金を中心に建設されたもので、雪に関する資料や冬期間の道路情報を集めた図書室、除雪車や雪上車を運行するなどの、冬期交通の中核的機能を果たすことが予定されています。

施設内容は、情報管理室・車庫・宿泊室・休憩室(集会室)・保育室・共同作業室(調理室)・ホール・食堂・浴室等からなり、参観に来た地区民から「もったいない」と

多方面に活用

六割が国県補助金

資料や冬期間の道路情報を集めた図書室、除雪車や雪上車を運行するなどの、冬期交通の中核的機能を果たすことが予定されています。

この財源は国庫補助金一千二百五十万円、県補助金六百二十五万円、町債五百万円、町一般財源七百九十四万三千円となっています。

第20回町畜産共進会

上の岱で盛会に

出陳77頭、主流は肉牛

昭和三十一年の第一回以来本町畜産の振興と発展に大きな役割を果たして来た家畜の祭典畜産共進会は、今回で二十回目を数え、七月一日上の岱グラウンドを会場に八十頭近くが出陳され、

永年親しまれて来た台山馬検場に老人いこいの家が建設されたため、今回から会場を上の岱グラウンドに変更したこともあり出陳頭数の低下が心配されていましたが、町の予定数七十頭を上まわる出陳があつた上、家族ぐるみの参観も多く近年にない盛況な畜産の祭典となりました。

出陳頭数は全体の七十五頭を占める五十八頭がみごと肉用牛(黒毛和種)で、乳用牛は十九頭と少く、本町畜産の主流が肉用牛にあることを物語っていました。

由利農業共済組合や由利郡畜産農業協同組合連合会等の技師たちにより部門ごとに慎重な審査が行われましたが、その評価は本町の畜産が資質・体型とも高いレベルにあると部門ごとの授賞者は次のとおり。

- 【黒毛和種若牛区】
①一等 畑山喜一郎(新田)
②伊東正男(蔵新田) ③下田三太郎(久保)
④二等 佐藤文一郎(下小)

郡共でも面目高揚

また、七月十四日、本町家畜市場構内で開催された第十一回由利畜産共進会に本町の上位入賞八頭が出陳され、郡市内各町村から選びぬがれた九十頭余りと覇を競いました。

本町の出陳牛は黒毛和種およびジャージー種の部でそれぞれ一等に入賞、東田利畜産の面目を高揚させました。

小松町長二選される

阿部候補に2百52票差



当選した小松町長

七月二十六日行われた任期満了に伴う町長選挙は有権者の高い関心の中で行われ、第一(黒淵)投票区の九七・二六割を最高に全町平均九四・五七割という高い投票率を記録、同日午後七時から役場会議室で行われた開票の結果、現町長小松榮男候補が町議で新人の阿部幸悦候補に二百五十二票の差をつけ二千三百六十二票を獲得して三選されました。

下まわる結果に終わりました。今回の選挙で報いられたかった投票総数の半数に近い有権者の声なき声を察知して町政を推進することが今後の大きな課題と見られています。

創意、持ち寄って

東田利町長 小松 榮 男

激しく揺れ動く最近の社会経済の中で、国県財政はもとより地方自治体(町)財政はきわめてきびしい状況に直面して、本町も例外ではありません。

とりわけ本町づくりにため、町民皆様の「ご正と一層のご援助を賜りますようお願い申し上げます。このとき、

成人式 8月15日
本年度の町成人式は八月十五日、東田利中学校体育館で

行われます。(該当者は約二百名)前日には該当者が主催する前夜祭も計画されており、該当者全員の参加がのぞまれています。

